

- 身近な生き物を捕まえたり、畑作りや地域の人とかかわったりする中で、児童が課題解決に意欲的に取り組めた。
- 話型指導や体験活動を行うことで、話し合い活動に積極的に参加する児童が増えた。
- CANVAを使用したことで、共同的に学ぶ姿勢をもつことができた。
- 役割決めに時間がかかったグループがあったため、全体で考えを出してから話し合いをしてもよかった。
- 情報収集の方法がインターネットに頼りがちだったため、様々な手立てを教師側が想定し工夫する必要がある。
- 総合の学習内容のどこにつまらなさを感じたのか、つまらなさを感じる点を明確にし、手立てを講じていく必要がある。

ご指導いただいた講師の先生

日本体育大学 非常勤講師 武蔵野大学 講師 宮崎 倉太郎 先生
明星大学 特任教授 相原 雄三 先生

研究に携わった教職員

校長 百田 明弘 副校長 仙石 真也 ○研究主任

- 【低学年分科会】 佐藤 淳一(1-1)・阿部 瑞帆(1-2)・伊藤 怜菜(2-1)・渡邊 美未(2-2)
橋場 こゆき(図工)・宮本 奈美(養護)
- 【中学年分科会】 植田 大智(3-1)・濱崎 広太(3-2)・石井 千鶴(4-1)・井上 三郎(4-2)
西尾 智子(音楽)
- 【高学年分科会】 ○平本 蘭子(5-1)・田口 貴之(5-2)・三浦 幸太(6-1)・鈴木 拓朗(6-2)
田中 健一(算数)
- 【みどり学級】 岩原 淳浩、鈴木 創大、石倉 聡乃、犬塚 順子、比留間 未央
- 【サポートルーム】 深澤 奈穂子、遠田 早苗、牧野 純明、黒田 龍馬

SDGsは2015年の国連サミットで採択され、2030年までの15年間で達成を目指す国際目標です。現状、半数近くの目標の進捗は遅れていて、残り5年は「できること」から取組を増やすことが求められます。

2030年改訂の学習指導要領において求められるものも多くあるようですが、その一つとしてよりよい社会を創ること、質の高い探究的な学びが求められています。本校では、児童にとっても教員にとっても過度な負担を生じさせずに実現できる姿を探っています。その答えの一つが、地域や家庭と連携・協働しながらカリキュラム・マネジメントを進めることです。

本校では「地域について学ぶ」「地域とともに学ぶ」活動を「相っ子学習」として、各学年の活動を系統的に位置づけ、教科・行事を横断的なカリキュラム構成できるよう見直しています。特に生活科・総合的な学習の時間を通して「相っ子学習」の充実を図りました。自分たちの相原に誇りをもち、そこで育つ自分を見つめ、将来への夢や希望をもたせ、自己の生き方について考える力を育てていきます。その先には、豊かな可能性を開花させた子供たちが、持続可能な社会の創り手となってくれる姿があるはずです。昨年度に続き、本年度も、地域との関わりを通して、子供たちが学び合い、高め合う姿を求め、研究を推進してきた取組の一端を紹介いたします。

町田市立相原小学校 校長 百田 明弘



研究主題

地域との関わりを通して 共に学びあい高め合う児童の育成
～地域の特色を生かした相っ子学習の充実～



町田市立相原小学校

校長 百田 明弘

所在地 〒194-0211 東京都町田市相原町1673番地

T E L 0 4 2 (7 7 1) 2 3 4 1

ホームページ URL <https://qr.go.page.link/4UTRd>



研究構想図

学校教育目標

◎よく考える子 ○なかよく助け合う子 ○からだを大切にする子

研究主題

地域との関わりを通して共に学び合い高め合う児童の育成
～地域の特色を生かした相っ子学習の充実～

研究テーマ設定の理由

本校は、自然に恵まれた地域であり、また、教育活動に協力的な地域の人材が多く、地域や自然に関する学習材が豊富である。それらの学習材を有意義に活用し、児童が興味関心をもつ課題を設定することで児童が主体的に探究活動を行うことができると考えた。また、児童が、各教科で習得した資質能力を課題解決に活用することを通してそれらが統合され、さらに学びが深まると考えテーマを設定した。

目指す児童像

意欲的に課題を見つけ、主体的・協働的に学び、考え、判断しよりよく課題を解決する。探究的な活動を通して、各教科で習得した知識技能を汎用的に活用できる

目指す授業像

地域と連携した特色ある教育活動を取り入れた探究的な活動を行うことにより、児童が興味関心を持って主体的・協働的に課題を解決していく授業。

研究の手立て

①課題設定の工夫

児童が様々な事柄や人の考えに触れられるような課題を設定する。各教科で習得した知識を生かせる課題を設定する。

②情報収集・整理分析・

まとめの工夫

地域の人材や施設、資料、行事など地域の特色を有意義に活用する。思考ツールやICTも効果的に活用する。

③協働的に学ぶ場面の設定

学級という集団の中で協働的な学習を有効に機能させ多様な情報を適切に活用し、異なる視点から意見交換を行い、探究的な学習の質を高める。

研究仮説

地域の特色を有意義に活用し、児童が主体的に探究活動を行うことで相っ子学習が充実し、共に学び合い高め合う児童を育成することができるだろう。

研究授業

指導案・成果と課題は、こちらをご覧ください。 →



低学年分科会

第1学年 生活科
「生きものとなかよし」

相原の生き物について考えることができました！



中学年分科会

第3学年 総合
「かいこはかせになろう」ICT×思考ツールの導入編

子どもの『考えた』が形になる



高学年分科会

第6学年 総合
「夢プロジェクト」

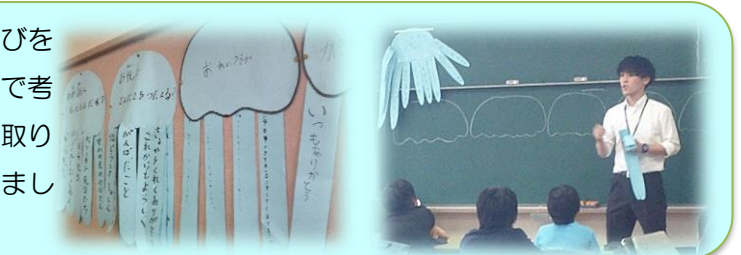
夢・希望・未来
将来なりたい自分になるため様々な職業について調べました



みどり分科会

総合
「みどり販売所を開こう」

子ども主体の学びを
実践し自分たちで考え進んで学習に取り組むことができました



サポートルーム

内容「PBS～ポジティブ行動支援～」
考えよう 高め合いに必要なスキルとは？
やってみよう・その1「痛快！PBS」
やってみよう・その2「シン・PBS」

